# 社会貢献

伊藤忠商事は地球的視野に立って「良き企業市民」として果たすべき役割を自覚し、地域社会、国際社会との調和を図り、持続可能な社会の実現に貢献しています。

地域社会及び国際社会と持続可能な社会を実現するため、5つの重点分野からなる「社会貢献活動基本方針」を定めて活動しています。

## 社会貢献活動基本方針

### 1. 世界の人道的課題

伊藤忠商事は、グローバルに事業を行う企業として、世界における人道的課題に積極的に関わり、豊かな国際社会の実現に貢献します。

### 2. 環境保全

伊藤忠商事は、環境保全活動を積極的に行い、社会の持続的な発展に貢献します。

### 3. 地域貢献

伊藤忠商事は、良き企業市民として地域社会との良好な関係を構築し、地域社会との共生を図ります。

### 4. 次世代育成

伊藤忠商事は、次世代を担う青少年の健全な育成を支援する活動を行い、心豊かで活力ある社会の実現に貢献します。

### 5. 社員のボランティア支援

伊藤忠商事は、社員一人ひとりが行う社会貢献活動を積極的に支援します。

# 社会貢献の主な活動： 東日本大震災支援活動

2011年3月に発生した東日本大震災は、東日本全域に甚大な被害をもたらしました。これからも伊藤忠商事では、長期的な視野で復興支援に全力を挙げていきます。

## 伊藤忠子どもの夢ファンド

「伊藤忠子どもの夢ファンド」とは、東日本大震災で被災した子どもたちへのサポートを目的に、伊藤忠商事が2013 年3月より展開している復興支援活動です。2013年度は下記の支援を実施しました。これからもさまざまなジャンルで、継続的に子どもたちの夢を応援していきます。

### 第1弾　岩手県陸前高田市の中学校の部活動や少年野球チームに関する支援

**陸前高田市のスポーツ少年団全7チームの県大会／遠征費用をサポート**

陸前高田市では子どもたちの遊び場であるグラウンドや公園に仮設住宅があり、野球チームの子どもたちは震災後も日々窮屈な思いをしながら練習を続けています。保護者の被災や失業により、チームの活動費が家庭の負担となっている状況もあることを知り、寄付を行いました。具体的には、陸前高田市の全ての少年野球チーム（7チーム、約160名）の県大会出場や遠征に必要な費用を支援する為に115万円を寄付しました。2013年6月8日には、陸前高田市小友小学校グラウンドにて少年野球チームへの遠征費用支援の贈呈式が行われました。
2013年秋からは「伊藤忠子どもの夢カップ」少年野球大会を開催し、陸前高田の全ての少年野球チームを応援しています。2014年は年2回開催します。

**高田東中学校へユニフォームを寄贈**

東日本大震災の地震や津波で大きな被害を受けた陸前高田市内の3つの中学校（米崎中、小友中、広田中）が統合し、2013年4月「高田東中学校」が誕生しました。伊藤忠商事は、復興のシンボルとして地域の拠点となる同校の校名が入った、新しいバスケットボール部及びバレーボール部、陸上競技部のユニフォームなど合計114着分の費用80万円を寄付しました。7月には、復興支援のために陸前高田市を訪れた伊藤忠商事の社員ボランティアが同校を訪問して、生徒たちと交流を行いました。

### 第2弾　東京都交響楽団主催「第15回ジョイントコンサート」で復興支援

伊藤忠商事は、「伊藤忠子どもの夢ファンド」第2弾として「ジョイントコンサート」に参画し、寄付を行いました。
公益財団法人東京都交響楽団（都響）主催の「ジョイントコンサート」は、年1回、都内在住・在学の小学4年生～高校生を一般公募し、書類選考を通った約100名が、5回のレッスンプログラムを受け、プロのオーケストラと一緒に夢の舞台を創り上げるコンサートです。
伊藤忠商事の寄付を通じ、被災地である福島県の中高生14名を公募で決定の上、特別招待しました。子どもたちは2か月にわたり東京へ通い、都内在住の子どもたちと一緒に都響の指導プログラムに則り、練習を積み重ね、2013年7月27日に本番を迎えました。当日はプロの演奏家たちと共に夢の舞台を創り上げ、見事な演奏で約1500人の観衆が感動に包まれました。

### 第3弾　震災3年目にあたり新たに2件を支援

東日本大震災3年目を迎えた2014年3月11日、「伊藤忠子どもの夢ファンド」を通じて、新たに2件の支援を実施しました。

**岩手県立山田高校ボート部への支援**

岩手県立山田高校ボート部に救助艇、及び浮桟橋の設置費用等として350万円を寄付しました。 同校ボート部は、震災前より強豪として全国的に注目されていましたが、震災によりボートをはじめ艇庫施設からオールまで、ほとんどの備品を失いました。救助艇が失われているため、練習する生徒の安全確保の懸念が生じたり、また基本設備の浮桟橋が無いため、部員は毎回冷たい海を渡ってボートに乗り移っている状況を改善すべく支援をすることにしました。

**仙台市立中野小学校「中野バレーボールスポーツ少年団　中野スプラッシュ」及び「中野スパローズ少年野球チーム」への支援**

仙台市立中野小学校の中野バレーボールスポーツ少年団　中野スプラッシュに男子チーム名入りユニフォーム及び男女のバレーボール用バックパックとして45万円、及び中野スパローズ少年野球チームに試合球、練習用プラスチックボール、折りたたみテント等として20万円の合計65万円を寄付しました。
学区全体が大きな被害を受け、被災した校舎はすでに解体されています。生徒数は以前の半数以下となり、近くの中野栄小学校で授業を受けています。中野スプラッシュは近くの小中学校を転々として練習、中野スパローズは被災した広場を整備し練習を続けています。被災地で頑張っている子どもたちを応援するため、今回の支援を決定しました。

## 伊藤忠たかたのゆめプロジェクト

岩手県陸前高田市が農業復興のシンボルとして展開している地域ブランド米「たかたのゆめ」プロジェクトでは、2013年の田植えから稲刈りまでの約半年間にわたる生産過程に伊藤忠グループ社員が現地ボランティアとして携わり、伊藤忠食糧株式会社が販売支援を実施しました。
当社役員も社員ボランティアと共に現地を訪問、陸前高田市長と意見交換をさせて頂く等、現場の「たかたのゆめ」に関する要望等をヒアリングした上で、現地農家のPR活動や販売促進等を行いました。
また、たかたのゆめの支援状況を伝えるホームページを立ち上げ、情報発信を行うと同時に社内でも認知啓蒙のために試食会や社員食堂での「復興応援メニュー」提供等を行い、全社をあげて積極的に支援を継続しています。
たかたのゆめプロジェクトの詳細については、「Highlight：地域社会への貢献」をご参照ください。（P22）

### 新宿髙島屋にて「陸前高田市写真展」と「たかたのゆめ企画展」を開催（たかたのゆめプロジェクト）

また、東日本大震災から3年が経過した2014年2月から3月11日にかけて、写真展「陸前高田写真展～心の支えができるまで～」と、「たかたのゆめ企画展」を新宿髙島屋にて開催しました。写真展では、陸前高田市を中心に被災地を撮り続けているフォトジャーナリスト安田菜津紀さんの震災から復興までの作品を展示しました。

# 伊藤忠記念財団を通じた被災地支援活動

## 伊藤忠記念財団と共に 東南アジアに絵本を贈ろう in 東北

「東南アジアの子ども達へ日本語絵本に現地語翻訳シールを貼って届ける活動」を行っている公益社団法人シャンティ国際ボランティア会より購入したキットを使用し、現地語の翻訳シールを絵本に貼る作業を、伊藤忠記念財団と共に、毎週、社員ボランティアが行っていますが、この活動を被災地の子どもたちにも拡げる取組みを実施しました。2013年7月6日 は宮城県仙台市、7月13日は福島県白河市にて、現地で文庫活動をされている団体等と一緒に、シールの貼り方の指導を社員ボランティアが行いました。

## 株主の皆様と行う「子どもの本100冊助成」

株主様宛情報の電子化にご承認いただき、節約できた用紙代・郵送料等を、伊藤忠記念財団が行う文庫助成に協力する活動を行っています。
2013年度は6,216名の株主様にご賛同いただき、それによって節約された金額と、伊藤忠商事からも同額を寄付して伊藤忠記念財団を通じて被災地の小学校や図書館に児童書を寄付しました。具体的には、津波で大きな被害を受け、4つの小学校が統合された「岩手県大槌町立大槌小学校」や原発事故で移転を余儀なくされた福島市の施設「こどものほんのいえ・そらまめ」の子どもたちをはじめ、全て現地の書店を通じ、以下の通り11の寄贈先に新品の図書セットが届けられました。

**2013年度寄贈先**

| | |
|---|---|
| **岩手県** | 大槌町立大槌小学校、釜石市立図書館、大船渡市立図書館、大船渡市立立根地区公民館、大船渡市立佐野地域公民館、ふれあい教室（陸前高田市） |
| **宮城県** | 気仙沼市立鹿折小学校、キッズROOMおひさま（気仙沼市）、増田児童センター、下増田放課後児童クラブ（名取市） |
| **福島県** | こどものほんのいえ・そらまめ（福島市） |

# 伊藤忠青山アートスクエアを通じた被災地支援活動

## 伊藤忠青山アートスクエアにて東日本大震災鎮魂と復興を願うイベント「蒼の祈り」開催

伊藤忠青山アートスクエアでは、復興を願って企画された展覧会「華道家 前野博紀アート展　花神・降臨(Ⅰ)」を3月8日～16日に開催しました。東日本大震災の慰霊の日を前にした3月10日の夕刻、復興イベント「蒼の祈り」を開催しました。華道家の前野博紀さんが岩手県宮古市から運んだ震災瓦礫で「白馬のアートモニュメント」を制作したステージで、流木に春を告げる桜を生けるパフォーマンスを披露、バイオリニストの古澤巌さん、チェロ奏者の大藤桂子さんの演奏、能楽師の津村禮次郎さんによる厳かな能の舞によって、東京・青山から東北への鎮魂と再生の祈りが捧げられました。震災当日を思わせる寒空の中、訪れた100人以上の観客が静かに見守りました。

# 社会貢献の主な活動： 世界の人道的課題

## 災害支援義援金寄付

国内外での大規模災害発生に際し、人道的見地より、義援金拠出・物資の提供を行っています。現地の支店・事務所とも連絡をとりながら下記の支援を実行しました。

### 最近の義援金拠出例

| | |
|---|---|
| **フィリピン 台風30号(Haiyan) 2013年11月** | ¥15,563,616 |
| **中国 四川省地震 2013年4月** | ¥5,025,000 |
| **アメリカ東海岸 ハリケーン 2012年11月** | （米国にて）US$50,000 |

## WFP 国連世界食糧計画への支援

世界の飢餓・貧困問題を少しでも解消するため、国連の食糧支援機関であるWFP国連世界食糧計画の公式支援窓口である国連WFP協会の評議員となり、さまざまな活動に参加しています。
2014年5月に横浜で開催された子供の飢餓の撲滅キャンペーンである「ウォーク・ザ・ワールド」に伊藤忠商事及び伊藤忠グループ会社社員及びその家族270名が参加しました。また、東京本社で、WFPの活動を紹介するパネル展や募金活動を定期的に実施しています。

子供の飢餓の撲滅キャペーン
「ウォーク・ザ・ワールド」に参加

## 途上国と先進国の食のアンバランスを解消する「TABLE FOR TWO」(TFT)

「TABLE FOR TWO 」（「二人の食卓」）は、開発途上国が抱える飢餓と、先進国が抱える肥満や生活習慣病の同時解決に向けて、時間と空間を越えて食事を分かち合うというコンセプトの社会貢献プログラムです。
2007年10月に日本で創設され、伊藤忠商事では翌年4月より東京・大阪・名古屋の社員食堂で、他社に先駆けて本格導入されました。
健康に配慮したTFT対象メニューを社員が購入すると、1食につき20円が寄付されます。これに会社も同額を寄付するマッチング・ギフト方式によって、20円が加算されます。つまり、1食につき40円がTABLE FOR TWOのプログラムを通じて、NPO法人国際連合世界食糧計画WFP 協会に寄付され、開発途上国の子どもの学校給食になっています！

現在、東京本社では2013年5月の社員食堂リニューアルと同時にTFTの定食が毎日提供されるようになり、それに伴い、利用食数が31,242食と大幅に伸び、613,280円を寄付しました。

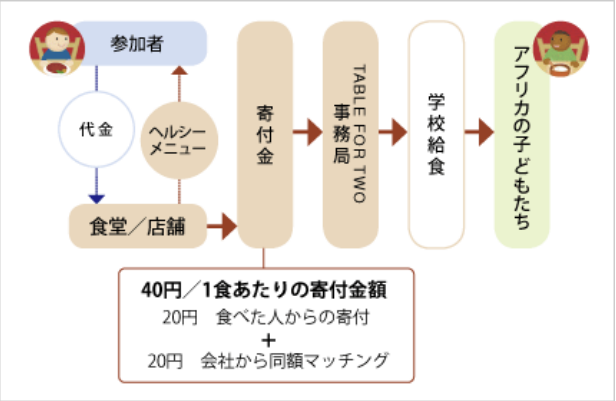


**TABLE FOR TWO ガイドライン**

1. カロリーが730kcal（680～800kcal）程度
2. 栄養バランスが適正
3. 野菜が多め

# 社会貢献の主な活動： 環境保全

## ボルネオ島での熱帯林再生及び生態系の保全プログラム

苗木の植樹

伊藤忠商事は、2008年に創業150周年を迎え、これを記念する社会貢献活動として社員アンケートにより要望の多かった「森林保全」をテーマとした本プログラムの実施を決定しました。
2009年度から公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWF)と協業し、ボルネオ島での熱帯林再生及び生態系の保全プログラムを実施しています。
伊藤忠商事が支援する森林再生地のボルネオ島北東部のマレーシア国サバ州北ウルセガマでは、WWFが現地サバ州政府森林局と連携して森林再生活動を行っており、そのうち967ヘクタールの再生を支援するものです。これは一般企業の植林活動支援としては最大規模の面積です。絶滅危惧種に指定されているオランウータンの生息地域であることから、このプログラムをITOCHU Group：Forest for Orang-utanと名付け、伊藤忠グループ各社と協力して推進しています。
また、グループ会社も含めた社員ボランティアツアーを毎年実施し、現地植林活動（植樹、草刈など）や野生動物の観察等に現地へ定期的に訪れています。

## マニラ麻農園リハビリテーション･プロジェクトを支援

1912年に開設したマニラ支店が100周年を迎えるのを記念し、6月にフィリピン中部のソルソゴン州農村地帯においてマニラ麻農園リハビリテーション･プロジェクトの支援について、フィリピン繊維産業開発局及び地元の農業組合であるSt. Ann's Family Service Cooperativeと協定を締結しました。2014年までに実施予定の90ヘクタール分（約14万4千本）のマニラ麻の植付と栽培に必要な資金の全額である200万円を拠出しました。また、本プロジェクトを通じて年間18トンの$CO_2$吸収が見込まれています。

# 社会貢献の主な活動： 地域貢献

## 「伊藤忠メディカルプラザ」設立で、神戸医療産業都市の発展へ寄与

公益財団法人神戸国際医療交流財団に対し、国内最大級の医療クラスターである神戸医療産業都市に2014年10月に開設予定の国際医療交流を目的とした施設「伊藤忠メディカルプラザ」の建設資金として5億円を寄付しました。東南アジアを中心とした諸外国の医師や医療関係従事者へ教育・技術トレーニング等の人材育成や、海外からの研修生受入事業、大学などと連携した医療機器開発など各種研究事業等の発展が、国内外で期待されています。

完成予想図

## CSRの拠点「伊藤忠青山アートスクエア」を展開

2012年10月に東京本社に隣接するシーアイプラザに、CSRの拠点として「伊藤忠青山アートスクエア」をオープンしました。アートを通じた「次世代育成」、「地域貢献」、「国内外の芸術や文化の振興」を目的に、みずみずしい感性あふれる優れた作品展や国際交流の懸け橋となるイベントなどを、さまざまな文化が息づく街、東京・青山から発信していきます。2013年度は下記の通り12件の展覧会を行い、2014年3月末時点でオープン以来の来場者数は4万5千人を超えました。
今後も、伊藤忠は、アートを通じて様々な社会的課題に取り組み、定期的に展覧会を実施することによって、地域の生活文化創造への貢献を目指していきます。
伊藤忠青山アートスクエアホームページ　http://www.itochu-artsquare.jp/

アートスクエア外観

| 会期 | 展覧会 | 概要 |
|---|---|---|
| 2013年3月16日～4月21日 | **江戸切子若手15人展** | 江戸切子の職人が年々減少する中、東京都江東区の若手職人15人の伝統と革新を備えた魅力的な作品を展示、伝統工芸を担う次世代の育成に寄与する企画 |
| 2013年4月26日～5月26日 | **自転車博覧会 IN AOYAMA** | 自転車史の中で希少な車種約20台を展示。2009年に「自転車に優しい街」宣言をした青山商店会連合会と連携し、自転車を通じた街おこしによって地域貢献にも繋がる企画 |
| 2013年6月10日～7月14日 | **ブックアートエキシビジョン ～五感で読む『本』～** | ブラジル大使館協力のもと、ブラジル人アーティストたちが制作した、本そのものがアート作品となっている日本初公開の「ブックアート」と、日本の若手絵本作家・池谷剛一さんの貴重な原画や絵本アプリなどを展示した、体感型企画展 |
| 2013年7月16日～7月18日 | **Happy Island ～未来に花を咲かせよう～** | 「福島復興」をテーマに、華道家・前野博紀さんが思う『今』を生け花で表現し、その空間の中で連夜『考福トークSHOW』を開催した新しいスタイルのアート展 |
| 2013年7月22日～8月31日 | **関口照生写真展「地球の笑顔」** | 世界の辺境を訪ね、そこで垣間見たさまざまな生活や人生をとらえることをライフワークとする写真家・関口照生氏の、ブータン、ミャンマー、キューバの人々の生きる姿を写した写真展 |

| 会期 | 展覧会 | 概要 |
|---|---|---|
| 2013年9月9日～9月23日 | **国境なき子どもたち（KnK）15周年記念写真展 共に成長するために** | 開発途上国におけるストリートチルドレンや大規模災害の被災児などを支援している認定NPO 法人KnK の15 年間の活動を、6 名のフォトジャーナリストが撮った約60 枚の写真で紹介 |
| 2013年10月1日～10月10日 | **空想美術大賞展** | 美術家の活躍の機会創出のため、画廊と共催した美術コンクールとして入選作96点を展示。入札制度も取り入れ、「絵を買う楽しみ」のアピールや美術界全体の活性化も狙った企画 |
| 2013年10月14日～11月4日 | **寺山修司の言葉展** | “言葉の錬金術師”と呼ばれた寺山修司の残した言葉を現代のトップクリエイターたちが視覚的に表現したアート作品を展示。近隣のワタリウム美術館の寺山修司展「ノック」と連携し、地域貢献の意義も持たせた街ぐるみの展覧会 |
| 2013年11月11日～12月23日 | **金澤翔子書展 ～共に生きる～** | ダウン症という障がいを抱えながらも、母である書家・金澤蘭凰氏（泰子さん）に師事し、大きな愛に満たされ、その力強さの中にも温かみのある書が今最も注目を集める若手書家 金澤翔子さんの書展 |
| 2014年1月10日～2月28日 | **楚里勇己日本画展 －イロノツラナリ－** | 伝統的な日本画の画材を使いながら、花の細部を観察しリズミカルに描く若手日本画家 楚里さんの作品展。現代の暮らしの中で日本画を楽しんでほしいという新進気鋭の次代を担う日本画家支援の企画 |
| 2014年3月8日～3月16日 | **華道家 前野博紀アート展 花神・降臨編Ⅰ** | 震災の復興を願い、岩手県宮古市から運んだ震災瓦礫を使用して、春を告げる桜を題材にした華道家の前野さんの花展 |
| 2014年3月21日～3月30日 | **ダウン症 家族のまなざし 写真展** | ダウン症のある子どもたちや成人した人々を愛情豊かなまなざしで写した写真の作品展。既に7か国で反響を呼んだ同展を、ダウン症の認知啓蒙を目指し3/21国連「世界ダウン症の日」に合わせ開催 |

## ロビーコンサート

2013年7月22日、東京本社にて第22回伊藤忠ロビーコンサートが開催され、700人強の社員・OBとそのご家族、地域の皆様が来場されました。また毎年ご招待している障害者総合福祉施設アガペセンターの皆様を今年もお招きし、コンサート前には司会の竹下景子さんと小林会長との交流会を開催しました。皆さん、1年に1回のこの日を楽しみにしていたとのことで、溢れる笑顔で交流、記念写真撮影をされ、ニューヨークシンフォニックアンサンブルの演奏も非常に喜んで頂きました。また、コンサート合間の竹下景子さんと小林会長のミニトークは、「普通のコンサートにはない知的な話題もユニークでした」といった来場者の方からの意見もあり、暑い夏の夕べに暫し音楽による癒しのひとときを楽しんで頂きました。来年も伊藤忠の夏の風物詩としてたくさんの皆様にご来場頂けるよう新たな取組や企画で盛り上げていきます。

## 青山通りの地域清掃活動を実施

東京本社近辺で、社員による地域清掃活動を実施しています。地域社会の一員として、地元自治会や近隣の他企業の皆さんと協力して清掃や啓発物配付を行っています。

# 社会貢献の主な活動： 次世代育成

## 伊藤忠記念財団への支援

伊藤忠商事は、1974年に公益財団法人伊藤忠記念財団を設立して以来、青少年の健全育成を目的とした社会貢献活動を継続して進めてきました。
現在は、「子ども文庫助成事業」（日本人学校、補習校への図書助成を含む）、「電子図書普及事業」を活動の柱に、子どもたちの健全な成長に寄与する活動を行っています。

アメリカ コネチカット州
ハートフォード日本語学校の生徒達

### 子ども文庫助成（2013年度）

| | 助成件数 |
|---|---|
| **子どもの本購入費助成** | 41件（うち海外2件） |
| **病院施設子ども読書支援 購入費助成** | 7件 |
| **子どもの本100冊助成** | 27件（うち海外7件） |
| **海外日本人学校／補習校図書助成** | 30件 |
| **子ども文庫功労賞** | 2件 |
| **東日本大震災被災地支援** | 21件 |
| **合計** | **128件（うち海外39件）** |

### 電子図書普及（2013年度）

| | 制作作品数 |
|---|---|
| **マルチメディアDAISY図書** | 55作品（送付先600件） |

伊藤忠記念財団ホームページ http://www.itc-zaidan.or.jp/

## 「キッザニア東京」に環境パビリオンを展開

伊藤忠商事は2012年4月より、こども向け職業体験施設「キッザニア東京」に環境パビリオン「エコショップ」を展開しています。
伊藤忠が参画する世界的な環境活動「MOTTAINAIキャンペーン」での環境教育のノウハウを活かし、子どもがエコ活動を体感できるように、環境素材を使ったマイ風呂敷、エコバッグ、マイ箸づくりなど自分だけのオリジナル商品を製作できます。
今後も、子どもに人気の高い施設である「キッザニア東京」に、グローバルな視点で環境保全について楽しく学べる場を提供することで、持続可能な社会を担う青少年の育成を目指してまいります。

リサイクルせっけんづくりの様子

## セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとインドで移動式図書館事業を開始

ムンバイ市M-East区で、ストリートチルドレンや児童労働に従事する、学校に通っていない子どもたち約1,000人を対象に移動式図書館事業を開始しました。2013年～2014年の2年で2千万円を投じて支援するもので、移動式図書館として運行するバスにラッピングを施し、椅子、黒板、そして本棚を設置し、2名の教育ファシリテーター（※1）とカウンセラーを配置した、学校の学習環境と近い内装にしました。ILO(国際労働機関)が定めた児童労働反対世界デーである2014年6月12日に、ムンバイ市にて開所式を開催しました。音声や動画などの教材も駆使して楽しく参加できる学習の機会を提供することで、子どもたちが学校へ通うための橋渡しになることを目的としています。

※1　教育ファシリテーターとは、移動式図書館における教員の役割を果たす職員。多様な年齢やバックグラウンドからなる子どもたちが自主的に学び、参加できる学習環境の場づくりを行う。

開所式に集まった子どもたち

## 認定NPO法人国境なき子どもたち（KnK）のフィリピンでの青少年支援施設サポート

開発途上にある国々のストリートチルドレンや大規模災害の被災児等を支援する認定NPO法人国境なき子どもたち（KnK）を通して2009年12月のフィリピンのマニラ郊外に青少年自立支援施設「若者の家」リニューアルオープンに係る支援を行い、2012年には子供たちの将来の自立支援に繋がる職業訓練所として新たな改築が行われました。
2013年11月、同施設の地下や屋根を改修したことで、実践的な技術習得のための職業訓練コースの拡充が可能になりました。この施設を通し、年間約1,000名の青少年に対しさまざまな支援が行われています。

「若者の家」の改修後の外階段

新しくなった地下のミシンルーム

手工芸品製作の職業訓練

PCを使った職業訓練

### フィリピンからのご報告（KnKのHPより抜粋）

2001年11月よりスタートしたKnKフィリピンの「若者の家」は、伊藤忠商事株式会社のご支援により2009年12月に新設されました。ここでは育児放棄された幼少の子どもたちが共同生活を送りながら、スタッフによる家庭的な愛情と適切なケアを受けています。子どもたちは「若者の家」に来る前は極度の栄養不足にあったことから年齢よりも極端に身体の小さい子が少なくありません。しかし、現在は規則正しい生活の中でバランスのとれた食事をとり、健康状態もかなり改善されています。
「若者の家」の施設内で、コンピュータ技術と縫製の訓練を実施し、スラム地域の青少年の就業を支援しています。また、スラムの中で手工芸を中心とした収入創出活動も開始しており、若者たちがアクセサリーの製作・販売を行うなど経済的な自立へとつなげています。

KnKのメンバーと

# 社会貢献の主な活動： 社員のボランティア支援

伊藤忠商事では年間最長5日間のボランティア休暇を取得できる制度や、休日・昼休みなどに参加できるプログラムなども開催することで、社員の意識醸成に努めています。
会社が独自支援プログラムを立ち上げる等、特に推奨しているボランティアは以下の2つです。
【国内】東日本大震災復興支援ボランティア
【海外】ボルネオ植林体験ボランティア

## 復興支援社員ボランティア

震災直後から始まった復興支援社員ボランティアを2013年度も継続、伊藤忠グループとして合計98名が参加しました。活動内容は、震災直後のがれきの撤去から被災者の皆さんの復興を直接支援するものになってきました。田植え、草刈り、稲刈りや果樹園での農業支援、牡蠣養殖手伝い等の漁業支援、そして被災者の皆さんの集会所の整備、少年野球大会運営等様々な活動を行いました。どの活動に参加した社員も、被災者の皆さんの前向きな姿勢に接して大きな感銘を受け、継続的な復興支援活動に意欲的になっています。被災地の復興にはまだまだ時間がかかる見込みですが、今後も被災地の状況に適したボランティア活動を続けていきたいと考えています。

## ボルネオ島での熱帯林再生及び生態系の保全プログラム

2009年から公益財団法人世界自然保護基金ジャパンと協業し、ボルネオ島での熱帯林再生及び生態系の保全プログラムを実施しており、毎年グループ会社の社員や海外で働くナショナルスタッフなどと共に、社員ボランティアツアーを組んで定期的に現地を訪れ、2012年までの全4回で59名が現地で植林活動を行いました。

## その他社員が参加できるボランティア・プログラム例

### 飲料自動販売機による「チャイルド・ケモ・ハウス」の支援

日本初の小児がん専門治療施設「チャイルド・ケモ・ハウス」の運営をサポートするため、東京・大阪本社内にケモ・ハウス仕様の飲料自動販売機を設置し、両ビル内に設置されるすべての飲料自動販売機の売上の6～10%相当の金額を寄付しています。2013年度は512,257本の売上により計3,073,542円の寄付を実施しました。

### ロビーコンサート（東京本社）　開催：7月

毎年ご招待しているアガペセンター※の方々と交流を深めながら、みなさんの音楽鑑賞をサポートしています。

※　神奈川県座間市の障害者総合福祉施設

## 神宮球場（青山）にて伊藤忠野球教室を開催

青少年育成の一環として障がいのある子ども達に、さまざまなことに挑戦する機会を与えたい、自分の可能性を見出す機会を創出する手助けをしたいとの考えのもと、2007年より野球教室を開催しています。
元ヤクルトスワローズ投手の矢野講師より、スポーツマンシップのお話や基礎的な動きなど、家庭での練習ではなかなか身につかない基本から、ノックのとり方や投球練習などの実践までを教えていただきます。指導のボランティアとして、伊藤忠商事相互会野球部に所属する社員もボランティアとして参加しています。2013年度は33名の子どもと38名のボランティアが参加しました。参加した子どもからは「初めての道具を使ってうれしかったです。これからもっと練習したいです。」などの感想があり、子ども達をはじめ保護者など参加者からも大変好評をいただき、毎年社員ボランティアも増加しています。

## 絵本を届ける運動（東京/大阪両本社、中部支社、九州支社、金沢支店）

日本語絵本に現地語のシールを貼り、東南アジアの子どもたちに贈る活動で東京本社では、毎週（木）昼休みに5F社友室を借りて活動中です。

## 「スワンベーカリー」のパン販売

スワンベーカリーとは、障がいを持つ人々に適正な賃金での雇用を促進する目的で、ヤマト財団により設立されたベーカリーで、2008年5月より、毎週水曜日に「スワンベーカリー」のパンを東京本社の社員食堂にて販売しています。多くの社員が積極的に購入し、スワンのみなさんからも「毎回パンをたくさん買ってもらい、有難い」と好評です。

## ふれあいのネットワーク　自然観察会

新宿御苑自然観察を4月初旬、セミの羽化観察会を8月初旬、横沢入観察会を10月初旬に実施し、社員及びその家族が参加しています。

## ふれあいのネットワーク　音読部会　開催：第2土曜日

伊藤忠グループ社員、OB、OGの有志が、毎月1回、渋谷の高齢者施設を訪問し、音読や合唱を通じて交流を図っています。10年間以上継続しているので感謝状も頂きました。